

# 首都圏に住む私たちも「当事者」 世界で一番危険な原発・浜岡原発を訪ねて

ハカルワカル広場（八王子市民放射能測定室）  
共同代表 西田照子

4月16日、ハカルワカル広場（八王子市民放射能測定室）は、浜岡原発見学ツアーを実施しました。

東海地震の震源地にあり「世界で一番危険な原発」と言われる浜岡原発を、実際に見てもらうこと、都民も浜岡原発の影響圏内に住む当事者であること、そして地元で反対運動をしている人たちと交流を深めることが目的です。27人が八王子から160キロの浜岡原発を訪ねました。

当日は快晴で、沿道の桜も満開、富士山も大きな山容を見せていました。車中ではハカルワカル広場の測定の中心である二宮志郎さんの「浜岡原発クイズ」で研修をしながら一路浜岡へ。



▲実物大の原子炉模型  
遠くに3本見えるのが取水塔▼



## 市街地が間近に

まず、地元で反対運動をしている伊藤美さんの案内で、浜岡原子力館を見学しました。「原発はCO<sub>2</sub>を排出しないクリーンなエネルギー」との展示が目につきます。子連れでも見学できるように、あちこちにプレイルームが。

実物大の原子炉（模型）の展示に圧倒されながら5階の展望台に上がると、市街地がすそそばに見えました。原子炉建屋（1〜5号機）は海側であり、向きがバラバラなのは5本の断層（活断層ではないと中部電力は主張）を避けているからだそうです。

原子力館の後、海側から5号機のそばまで行き、外側から見学しました。砂丘の上に建つ原発はまさに「砂上の楼閣」。津波に備えて中電は防潮堤を高くしましたが、果たして22メートルの高さで防ぎきれのでしょうか？



## 9000本もの使用済み核燃料が

海の中に立つ取水塔（写真左上）では、海水を取り込んで冷却水にしています。多摩川への流量の5〜6倍も放水するため、稼働中は海水温度が7度も上がり、生態系が破壊されたそうです。今は稼働していないため（1、2号機は廃炉作業中。3、4、5号機は休止中）、元に戻りつつあるといえます。

この原発内に、約9000本もの使用済み核燃料が保管されている事実は恐怖を覚えました。しかし、海側は全くの無防備。「テロ等には備えているのだろうか」と疑問もわきました。見学後は、地元で困難な反対運動をしている人たちとの交流。私たちの質問に答え、実情を話してくれました。建設業を営む人は「反対運動をしているからといって商売に支障はない。

\*ハカルワカル広場のサイトから抜粋。http://hachisoku.org/blog/

## 浜岡原発 〇×クイズ

あなたは、いくつ答えられますか？

- Q1 臨界状態とは、核分裂反応がどんどん増大している状態のことだ。
- Q2 浜岡原発は過去に水素爆発事故を起こしたことがある。
- Q3 沸騰水型原子炉の蒸気でタービンを回した後の蒸気は海水で冷やす。
- Q4 浜岡原発運転中の温排水は、多摩川から海に流れ出す水量より少ない。
- Q5 浜岡原発運転中、環境に放出するトリチウムは1基あたり3億ベクレル程度だ。
- Q6 使用済み核燃料貯蔵プールの水の循環が地震等で止まったら、使用済み核燃料は温度が上がりメルトダウンを起こす。
- Q7 浜岡原発5号機 ABWR は、今は破綻しそうな東芝が担当した原発だ。

- A1 × 一定で継続しているのが臨界状態。増大している状態は超臨界、減少している状態は未臨界。
- A2 ○ 2001年11月、1号機で試験中、水素爆発で炉心が破断する事故を起こした。
- A3 ○ 海水は温排水となって放出される。
- A4 × 1号機から5号機までの海水取水量は335m<sup>3</sup>/秒、多摩川流量は約37m<sup>3</sup>/秒。
- A5 × 1基あたり3000ベクレル/L程度。
- A6 × 2011年11月に発生した福島第一原子力発電所事故の際、2号機から6号機まで約1000ベクレル/L程度。
- A7 ○ 今も使用済み核燃料の貯蔵が課題となっている。

むしろ多くのソーラーパネル、風力発電装置などの注目が来ている」。医師は「9000本の使用済み核燃料の処理は、どこも引き受けてくれないだろう。廃炉をしても万歳ではない」と指摘しました。

掛川市に住む人は「私は反対派でなく疑問派。東海地震の震源地にある原発なのだから、地殻変動にどう備えているかと問うている。中電の中にも原発再稼働に反対する社員もいるようだから、『中電と共に脱原発を考へる会』を立ち上げたい」。他にも「被ばく労働を強いる原発には反対」「3・11以降、地元で風車が増えている」「地元では原発反対を口にできない空気が。3・11以後も原発がなければ働き口がないので、市長選、市議選も原発は争点にならない」：等々。

また、ハカルワカル広場の「微量放射能漏れ監視プロジェクト」のモニターでもある伊藤美さん宅（浜岡原発近く）で、ある時からセシウム137が検出されるようになり、それが1、2号機の廃炉作業（放射線管理区域の解体工事）の時期と一致していました。中電に確認すると「廃炉作業で放射能は少し出ているが、クリアランスレベル（法律で許容されている範囲）で問題はない」との回答。放射能が漏れている事実を認識していました。

伊藤真砂子さんは「原発立地だけでなく、都会（東京）の人も当事者なのだ」という意識を持ってほしい。汚染ごみが全国にばらまかれ、地元だけが当事者ではない」と指摘しました。

浜岡原発で事故があれば、160キロしか離れていない東京も甚大な被害を受けることとなります。決して他人ごとではなく、私たちが当事者なのだということを身に染みて感じたツアーになりました。